

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第21号 2020.10.4 発行

4号棟建設準備が進行中

4号棟は7本柱の大型住居となるため、前回の建設とは異なる部分もありますが、一度経験しているメンバーからはいろいろな改善案が出され、手早く修正して作業が進んでいきます。五里霧中で、“何がどうなるか?”、“なにをどうするのか?” がまったく推測できなかった前回との違いを大きく感じます。幾多の経験を重ねることにより、縄文住居もしいに進化をさせていったのではないかと改めて思います。

❖ 7本柱の整備作業

以前から仮に建ててあった柱の位置や太さのバランスが悪かったのを掘り直して柱の位置決めをし直します。柱に梁を載せるために二股となった箇所を加工しますが手慣れた職人さんが増えてきたのであつという間に7本共に加工が終了しました。

梁に使用する木材を実際に載せてみて調整を重ねますが、予想以上に木材の重量があり、また思いの外体力がなく? 載せたり下したりする際には十分注意が必要です。

梁材が頭にあたって心配された人もいましたが、その後異常もなく? 相変わらず口の方は快調のようなので一安心。皆さん、これからも足元と頭上には十分注意しましょう!



❖ 仕事熱心な人たち

北社の天気は場所によって天候が異なり、住んでいるところから明野の様子が分からず、行こうか行くまいか悩む事もしばしば。ダメ元で行ってみると霧の中でもメンバーたちは集まってきていてその熱心さに感心させられてしまいます。



前日切り倒したクヌギを足場の悪い中、谷から引き揚げて皮むき
こんな天候の中でも作業する情熱はどこからくるのでしょうか？

❖ 新たな伐採方法が分かってきました



今までは、樹の周囲をまんべんなく石斧で切っていましたが
ここのところは前後の二方向からだけ切る方法を採用しています。
一見効率が悪そうに思われますが、樹木の倒れる方向が安定して
思った方向に木を倒すことができます。また、クヌギに比べてクリ
の木は短時間で切り倒せることも分かってきました。
このようにして木の特性から住居に利用した材料も選択されて
いったのかもしれませんが。

❖ ユネスコの取材

梅之木遺跡も世界的になってきたのでしょうか？
参加の機会が増えれば、佐野さんだけではなく我々も取材され
世界デビューできるかもしれません。先日も公園管理のNPOの人が
HPに載せたいと言って伐採場面をビデオに撮っていきました。
NHKの夕方のニュースでも3号棟が取材されたこともあったようで
徐々にですが認知度も高まってきているようです。



❖ 4号棟にも石炉ができました

まだ、仮置きですが4号棟にも炉を設置しました。
炉があるのと、無いのとでは
実際の生活感に大きな違いが
感じられるのが不思議です。
前回の残った石を活用したため、
石拾いに行かずに済みました。
おかげで骨折者も出ず（笑）順調
に作業ができてほっとしました。



<お知らせ>

10月9日（金）に高遠の先まで石斧材料の石材を拾いに行く予定にしていたのですが、人数が3人しか集まりませんでしたので、いったん中止としました。市民ボランティアの方でも石拾いに行く希望があるようなので、そちらと時期を調整してまた日程をお知らせします。
従って、9日は通常の作業を予定していますので、梅之木遺跡にお越しく下さい。